

なぜそこに神社が建てられたのか？

～電子地図から古代史の「謎」を解明する～

長谷川 彰

「神社は、たまたまそこに建てられたのではなく、何らかの明確な意味がある場所に建てられた」という仮説を立てた筆者が、それをどのように実証していったかを示したドキュメンタリである。もともと技術者であった筆者が、子どものときに抱いた神社に関する「謎」をWeb上で公開されている日本の「電子地図」から、科学的・実証的に解き明かしていく。しかし、謎の解明は、新たな謎をよぶ。まるでミステリ小説を読むようでもある。

(編集部)

① 「なぜ、ここに神社があるの？」

● 不便なところに神社がある

神社は、七五三や初詣、結婚式など日本人にとっては縁を切ることができない場所です。筆者自身、初詣は欠かしたことがありません。幼いころ、母に手を引かれ、数多くの石段を登って神社へお参りに行ったことをよく覚えています。そのとき、なぜこんなに不便なところに神社があるのかとても不思議でした。母にそれを聞くと、「昔からここにあった」とのつれない返事だったので、がっかりした記憶があります。

その後、多くの神社を見て回りましたが、便利な場所に神社があると思えば、人里離れた深い山の中や、まったく人家のない田んぼの真中であつたりと、その場所は一律ではありません。そこで、なぜそこに神社があるかを考えるようになりました。もしかしたら、その位置を決める何か法則があるのではないかと仮説をたてたのは、そのころです。

この仮説について、本格的な研究を開始したのは、国土地理院から全国の地図がWeb上に公開されたことと、当時はまだとても高価でしたが、携帯形GPSを手にするようになってからです。しかし、何の手がかりもないまま日にちだけが過ぎていきました。

● 神社の位置に規則性はない！？

一般的には、古神道^{注1}のはじまりはアミニズム(精霊崇拜)から始まったので神社の位置は当然ランダム

になっていて、その配置に規則性などあるはずはないと考えられています。

実際に地図上での、神社の分布は、豆を床にばら撒いたようで、そこから規則性を見つけることはとても困難で、挫折しそうになりましたが、郷里の友人たちから強く応援を受け研究を継続することができました^{注2}。

② きっかけ——新潟県の不思議なピーク

● 同じ緯度にある二つの頂上ではない謎のピーク

ある日、郷里である新潟県の地図を調べているとき、筆者の実家のある町(新潟県南蒲原郡田上町)で、● 護摩堂山の一等三角点(268.3m)のある側の山頂(この山にはピークが二つあり低いほう。もう一つの標高は271mでこちらが一般的)



写真1 弥彦山の遠景(弥彦山は多宝山との双耳峰)

注1：古神道とは、仏教が入って来る以前の日本独自の民族宗教。実際はどのようなものだったかははっきりしていない。梅原猛氏は縄文時代からの万物に霊が宿るとした思想(アミニズム)が古神道の根底にあるように言っているが確かな証拠があったわけではない。

注2：中野象男氏(前 田上町文化財調査審議委員長)、小学校から同級であった轡田忠生氏(元小学校長、1955年に筆者と二人で新潟県では最初に弥生式土器を発見)や田巻藤一郎氏(田上町教育委員長)たちが大きな支えとなった。また、平野俊夫氏(新潟県長岡市在住、小林石油専務取締役)、那良則人氏(現在、宮崎県在住)、電子回路技術研究会(CQ出版社主催の研究会)の会員などの協力者も得ることができた。

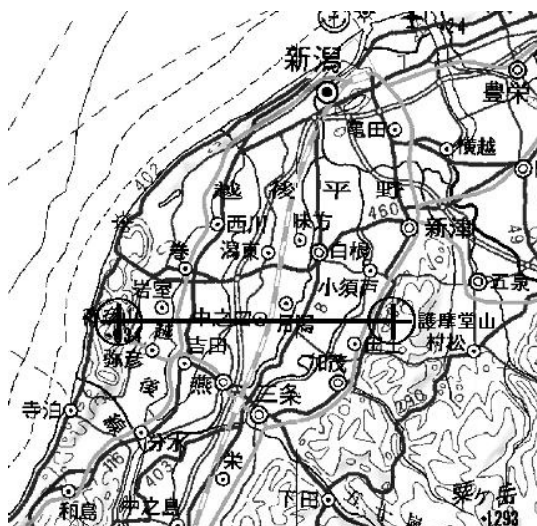


図1 同じ緯度にある弥彦山近傍「謎のピーク」と護摩堂山



写真2 多宝山（頂上に気象レーダがある）の手前に「謎のピーク」がある（方位盤が見える）

と、そこから真西25kmほどの新潟県長岡市と西蒲原郡弥彦村の境界にある、

- 弥彦山と多宝山の間の塚状になった標高約570mの小ピーク（1/25000の地図では小さなきれいな真円地形で表示される平坦面）

とが、まったく同じ「緯度」にあることに気づきました（図1）。偶然と思いましたが、少し気になります。

弥彦山と護摩堂山は、どちらも伝説の多い山です。弥彦山のふもとには有名な弥彦神社（彌彦神社）があります。護摩堂山の近傍には全国でもきわめてめずらしい崇神天皇を祭神とする宇都良波志神社（明治35年に廃絶）と呼ばれた神社があったり、興味の尽きない場所でもありました。

● なぜそのピークに方位盤があるのか

ともかく、弥彦山に行き、その位置をGPSで測定し



図2 弥彦山近傍の謎のピークと護摩堂山の地図

ました。きわめて高い精度で護摩堂山の三角点と緯度が一致しています。しかも、塚の上には古い観光用の方位盤が付けられています。方位盤が山頂付近にあるのはよく見られますが、このような中途半端で北側が多宝山に妨げられて展望もできない場所に方位盤があるのは不自然に感じます。この塚は何だろう、昔は何か意味ある場所か、人工的な盛塚だったのかとも思い、弥彦観光協会にその塚と方位盤の由来を問い合わせましたが返事はありませんでした。

しかし、この事実を契機にして、もしかしたら古代人が精密に方向を知ることができたのではないかとした考えを強くもつようになりました。

このピークの正体は未だにわかりません。しかし、この位置は後に述べる周辺の神社と正確に「直角収斂則」が成立し、「神社群中心」の位置に相当していることから、古代は何らかの祭祀場があったのではないかと筆者は推測しています。

ところが、周辺の神社の中でも弥彦神社の位置は、

注3：神社の位置をむやみに移すと祟（たたり）があると伝えられているが、その真偽はともかく神社・祠の移動は慎重であるべきであろう。地上戦のあった沖繩や原爆の投下された広島や長崎、震災や大空襲の甚大な被害を受けた東京でもほとんどの神社が古代の位置を保っているという。神社の位置はきわめて貴重な文化的財産といえるもので、そこには日本人の起源を物語る確かな証拠が隠されていると思われる。